



2017年度 さいたま総合診療医・家庭医センター 年次報告書

2017年4月～2018年3月



Saitama Center for General and Family Medicine



目次

センター長挨拶	1
SGFAM概要	
ミッション・ビジョン	2
医療生協さいたま事業所紹介・教育施設紹介	3
医療生協さいたま(SGFAM)研修プログラム紹介	4
フェロープログラム紹介(診療所マネジメント・診療所復職支援)	4
2017年度活動報告	
企画一覧	5
レジデントデイ	6
CSA	8
ポートフォリオ発表会	9
家庭医療学夏期セミナー	10
IPW研修	11
まち歩き@行田	12
2017年度学術大会発表一覧	13
2017年度講演	14
2017年度執筆	15
2017年度医療生協活動	16
スタッフ紹介	17
フェローシップ紹介	18
研修修了生紹介	19



センター長挨拶

さいたま総合診療医・家庭医センター
センター長

関口由希公(さいわい診療所所長)

2017～2018年は後期研修が深化しました。

SGFAMは、医療生協さいたまの総合病院で働く総合医と診療所で働く家庭医が連携し、お互いの長所を生かしながらそれぞれの力量をレベルアップさせるために開設されました。

それを実現するように、2017年からおおみや生協診療所で佐藤順紀先生が、さいわい診療所で久志本舞衣子先生が家庭医療の専門研修を受けました。そして久志本先生はSGFAMが始まって2人目の卒業生として2018年4月に後期研修を修了しました。

加えて、すでに消化器科専門医として力を発揮していた三輪佳雅先生が、さいわい診療所に来てくださり、診療所マネジメントプログラムの研修を開始しました。このプログラムは「家庭医療専門医の資格を取得後に地域医療を実践したい」、または「セカンドキャリアとして診療所の管理運営について学びたい」というニーズに応えるため、診療所医療の実践を学ぶプログラムとして新たに開発したものです。

さらに2/24にCSA(Clinical Skills Assessment)を開催しました。SPさんを相手に模擬診察をして、診察の様子を振り返りました。評価者は医師だけでなく、看護師さん、SPさん、事務さんにも参加して頂き、診察風景を多面的に考察することができました。

4月から、総合診療専門医制度がスタートしています。

総合診療専門医の制度は紆余曲折がありましたが、ほかの18領域の専門研修と一緒にスタートを切ることになりました。埼玉県内で総合診療専門医の研修を開始するのは7名とされています。(2018.3現在)

SGFAMのプログラムも松村憲浩先生が研修を開始してくれました。これから埼玉県内外の総合医・家庭医が連携して専攻医の研修を支えていきたいと思えます。

総合診療プログラムの問題はへき地研修が秩父でしか受けられないこと。

ただし、総合診療プログラムには問題も多いです。その一つはプログラムにへき地研修が必修とされていること。もう一つは埼玉県のへき地研修は秩父地域でしか受けられないことも大きな問題です。埼玉県は医師の不足している地域が多く、人口10万人当たりの医師数が秩父より少ない地域は、北部(熊谷、深谷)、利根、県央、東部、南西部、南部と県全域にわたります。医師の充足していない地域もへき地研修先として認定してもらえよう、自治体や医師会と一丸となって制度をよりよくしていきたいと思えます。

SGFAM 2つのミッション

さいたま総合診療医・家庭医センター

医療生協さいたまの総合病院で働く総合医と診療所で働く家庭医が連携し、お互いの長所を生かしながら、それぞれの力量をアップさせること。

埼玉の家庭医・総合医を増やすこと。

SGFAM ビジョン

臨床

- ・ 8つの診療所に所長・副所長を
- ・ 川口・さいたまの在宅医療をセンター化

教育

- ・ 協同病院の急患外来を研修部門に
- ・ 初期研修医の研修指導を引き受ける

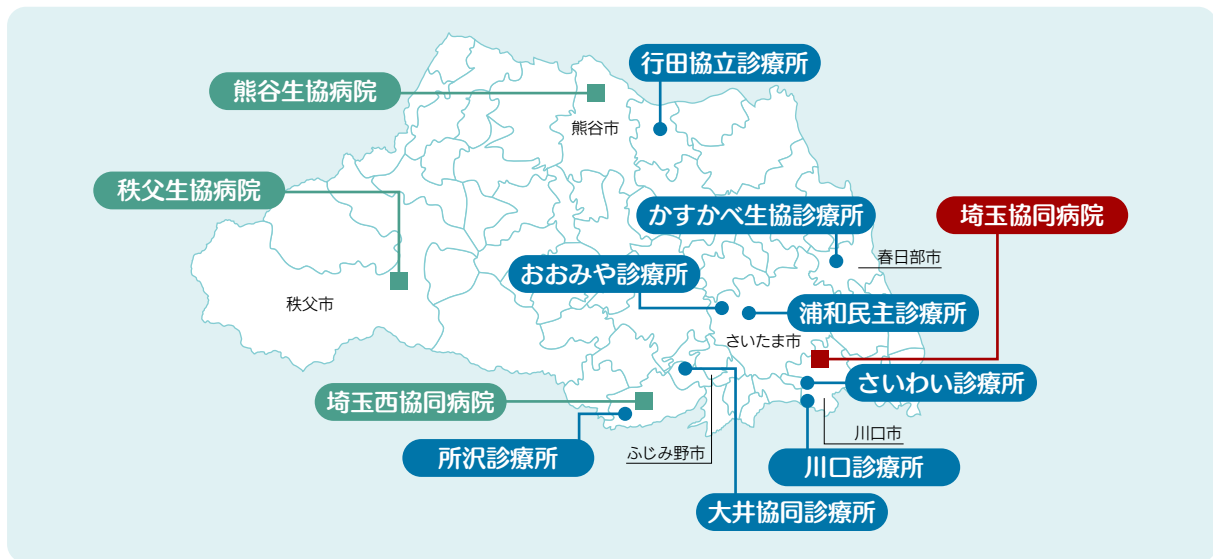
研究

- ・ 核になる研究指導員を養成
- ・ 病院・診療所の他施設で疫学研究

交流

- ・ 毎年オール埼玉で研修医オリエンテーション
- ・ 定期的なカンファレンスの開催

医療生協さいたま事業所紹介



研修基幹施設 埼玉協同病院

研修指導医

- ・山田歩美
- ・忍 哲也
- ・久保地美奈子
- ・稲村充則
- ・平澤 薫

研修領域

- ・総合診療Ⅱ、内科、小児科、救急
選択研修

病院概要

- ・病床数 401床
- ・臨床研修基幹病院

教育施設紹介(病院群)

	埼玉西協同病院	熊谷生協病院	秩父生協病院
病院名			
研修指導医	・吉野 肇(院長)	・小堀勝充(院長) ・宮岡啓介	・山田昌樹(院長) ・吉野隆之
研修領域	・総合診療Ⅱ (・内科)	・総合診療Ⅱ(・総合診療Ⅰ) ・小児科 (・内科)	・総合診療Ⅰ
病院概要	・病床数 50床 (一般26床、地域包括ケア病床24床) ・2019年、99床に増床予定 ・外来 ・訪問診療	・病床数 105床 (療養型病床55床、一般病床26床、 地域包括ケア病床24床) ・外来 ・訪問診療	・病床数 75床 (回復期40床、療養型病床35床) ・外来 ・訪問診療

教育施設紹介(診療所群)

	さいわい診療所	大井協同診療所	おおみや診療所
病院名			
研修指導医	・関口由希公(所長)	・増山由紀子(所長)	・山田晃務(所長)
研修領域	・総合診療Ⅰ	・総合診療Ⅰ	・総合診療Ⅰ
診療所概要	・外来 ・訪問診察	・外来 ・訪問診察	・外来 ・訪問診察

医療生協さいたま(SGFAM)研修プログラム紹介

SGFAM(医療生協さいたま)の養成する家庭医・総合診療医

- ・診療所でも、中小病院でも、大病院の総合診療科でも働くことのできる医師
- ・得意分野、サブスペシャリティを持って働くことのできる医師
- ・臨床、教育、研究のバランスを自ら考え、生涯学び続けることのできる医師

総合診療専門医・家庭医療専門医プログラム

SGFAM(医療生協さいたま)では現在3つのプログラムが運営されています。

総合診療専門医

一般社団法人 日本専門医機構認定プログラム

さいたま総合診療医・家庭医センター 埼玉協同病院 総合診療医プログラム

(プログラム責任者：山田歩美(埼玉協同病院))

❖ 研修基幹施設：埼玉協同病院

教育施設：埼玉西協同病院、熊谷生協病院、秩父生協病院、さいわい診療所、大井協同診療所、おおみや診療所

家庭医療専門医

日本プライマリ・ケア連合学会認定 家庭医療後期研修プログラム ver.2.0

医療生協さいたま 総合医・家庭医プログラム

(プログラム責任者：関口由希公(さいわい診療所))

❖ 研修教育施設：埼玉協同病院、埼玉西協同病院、熊谷生協病院、秩父生協病院、さいわい診療所、大井協同診療所、おおみや診療所

家庭医療専門医

日本プライマリ・ケア連合学会認定 家庭医療後期研修プログラム ver.2.0

秩父生協病院 地域で必要とされる医師になるための家庭医療後期研修プログラム ver.2.0

(プログラム責任者：山田昌樹(秩父生協病院))

❖ 研修教育施設：秩父生協病院、熊谷生協病院、埼玉西協同病院、埼玉協同病院

フェローシッププログラム

SGFAMでは、専門医研修を修了し、さらなるキャリアアップを目指す方、復職を希望される方を対象にしたプログラムも提供しています。

診療所でのマネジメントを学びたい方、
地域で開業・継承をお考えの方



「診療所マネジメントプログラム」

子育て等が落ち着き、
診療所で復職をお考えの方



「子育て女性医師支援 診療所勤務プログラム「さくら草」

2017年度 SGFAM 活動報告一覧

	レジデントデイ 開催日程	・日本プライマリ・ケア連合学会企画参加等 ・外部団体参加企画	SGFAM企画等 (医療生協さいたま企画)
2017年4月	4/22 (土)		
5月	5/27 (土)	・5/13～14 第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(香川高松)参加	
6月	6/24 (土)		・6/20 IPWファシリテーター講座① (埼玉西協同病院)
7月	7/22 (土)		・7/22 IPWファシリテーター講座② (埼玉協同病院)
8月		・8/5～7 家庭医療学夏期セミナー(IPWセッション)参加(滋賀県琵琶湖)	
9月	9/16 (土)		・9/26 県連事務部会学習会①講師参加
10月	10/28 (土)	・10/14 つくば家庭医療・総合診療セミナー参加(筑波大学) ・10/27 市立川口高校キャリアガイダンス(三輪Dr講師)	・10/7 埼玉民医連医師部会総会(茨城つくば) ・10/21 IPW研修(埼玉西協同病院) ・10/28 IPW研修(さんとめ) ・10/30 法人看護学会委員会学習会講師 「ポスターの作り方」
11月	11/25 (土)	・11/19 日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック支部会参加(埼玉大宮)(スタッフセッション講師参加)	・11/28 県連事務部会学習会②講師参加
12月	12/16 (土)		・12/9 IPW研修(熊谷生協病院) ・12/26 県連事務部会学習会③講師参加
2018年1月	1/27 (土)	・1/27 東京女子医科大学女性医療人キャリア形成センターシンポジウム(関口Dr、山田Drパネリスト)	
2月		・2/24 第3回埼玉ポートフォリオ発表会(埼玉県総合医局機構 地域医療教育センター)	・2/24 CSA開催(埼玉県総合医局機構 地域医療教育センター)
3月		・3/25 CFMDポートフォリオ発表会(山田Dr、岩隈Ns、坪井Ns発表)	・3/3 後期研修修了式:埼玉民医連医師部会総会(さいたま市) ・3/20 まち歩き企画(行田協立診療所)

2017年度 レジデントデイ

開催日：2017年4月22日、5月27日、6月24日、7月22日、9月16日、10月28日、11月25日、12月16日、2018年1月27日(計9回)

開催場所：埼玉協同病院 7階 SkillsLab室

参加者名(または参加人数)：

指導医／関口医師、増山医師、忍医師、山田歩美医師、小堀医師、吉野肇医師、山田昌樹医師、吉野隆医師、山田晃務医師、宮岡医師、平澤医師、久保地医師、稲村医師

総合医・家庭医レジデント／村岡医師、久志本医師、小野塚医師、佐藤医師

マネジメントプログラム／三輪医師

事務局／芦野、根岸

ゲスト参加／渡部(川口診療所事務長)、浜平(さいわい診療所事務長)、医学生

内容報告

2017年度は毎月第4土曜日を定例として、医療生協さいたま総合医・家庭医プログラムに所属する専攻医(4名)とマネジメントプログラムに所属する医師(1名)、各プログラムの指導医(14名)でレジデントデイを9回開催しました。

家庭医・総合医プログラムに所属する専攻医はClinicalJazzで臨床経験の振り返りを行い、指導医が家庭医療のコアレクチャーを行ってきました。またマネジメントプログラムに所属する医師は、毎月の振り返りと、マネジメントレクチャーを行ってきました。

4月は、1年目レジデントが自己紹介プレゼンを行い、2、3年目のレジデントがClinicalJazzを行いました。関口医師による「ポートフォリオ作成の戦略」のレクチャーが行われ、家庭医とは何か、振り返りをするためには何をすれば良いか、を学びました。

5月は、1年目レジデントも含めた3名がClinicalJazzを行いました。3名とも「家族」との関係性を選んだ事例で、そのあとの関口医師による「家族志向ケア」のレクチャーが実践的な振り返りになりました。マネジメントプログラムのレクチャーでは「QI：質改善」が行われました。

6月は、高橋医師(赤羽東診療所)が、「患者中心の医療」のレクチャーを行いました。ゲストとして川口診療所の事務長と医学生さんも参加され、ワークショップをしながら学びました。マネジメントプログラムのレクチャーでは、関口医師による「成人学習理論について」が行われました。

7月は、レジデント3名がClinicalJazzを行いました。マネジメントレクチャーでは、事務長が「経営について」のレクチャーを行いました。

9月は、レジデント2名がClinicalJazzを行い、各領域研修や各事業所での学びや気づきを共有しました。

10月は、レジデント1名がClinicalJazzを行い、症例として高齢者の終末期の栄養に関して悩んだ症例が報告されました。NEXTSTEPとして介護する家族についてのフォローや病前の患者の思いを聞くことが話されていました。コアレクチャーは、「行動変容」で高橋医師(赤羽東診療所)が担当し、禁煙治療のための行動変容についてロールプレイをしながら学びました。マネジメントレクチャーは安全企画室薬剤師による「医療安全の基本」を行いました。

11月は、レジデント2名がClinicalJazzを行い、腹部エコーの研修報告や健診後患者への関わりの重要性、病棟で治療方針に悩んだ患者の症例などが報告されました。コアレクチャーは山田医師が担当し、「BPSモデル-bio-psycho-socialモデル：生物心理社会モデル」について学びました。

2017年度活動報告

12月は、レジデント2名がClinicalJazzを行い、1名からは患者家族との関係性で診療所が困っている症例について報告があり、参加者で意見交換を行いました。もう1名からは退院後の方針に関して難渋している症例が報告されました。コアレクチャーは関口医師による「複数の健康問題、統合的ケア」で、マルチモビリティ (multimorbidity) を考慮したケアのアプローチについて実際の症例を使用しながら学びました。

1月は、レジデント2名がClinicalJazzを行い、1名からは診療所での除細動付き患者の看取りについて勉強したことが報告されました。もう1名からは、診療所の往診患者の対応について悩んでいる症例が報告されました。また、2月のポートフォリオ発表会に向けて、ポートフォリオのモックアップを行いました。マネジメントプログラム医師からは、各院所での勤務・研修状況が報告されました。



筆者感想



根岸 千尋
埼玉協同病院
教育研修センター 主任

事務局として、1年間レジデントデイに参加させていただきました。家庭医についての知識がない中での参加でしたが、指導医によるコアレクチャーをレジデントと一緒に聞いたり、ロールプレイに参加させていただいたり、多くのことを学ぶことができました。また、レジデントのClinicalJazzは、研修の成果やレジデントの成長を感じることができる貴重な時間でした。

次年度は、家庭医・総合診療医を目指す医師・医学生や他職種の方など、たくさんの方々に参加してもらい、一緒に学んで行ければと考えています。

臨床実技試験(CSA: Clinical Skills Assessment)模擬試験

開催日: 2018年2月24日(土)

開催場所: 埼玉県総合医局機構 地域医療教育センター

参加者名: 専攻医(受験者) / 久志本Dr、佐藤Dr、松村Dr

指導医(評価者) / 関口Dr、山田あDr、小堀Dr

看護部(評価者) / 四方田看護長、石田看護長、岩月看護長、英岡看護長

模擬患者 / 医療生協さいたま SPの会より3名・医学生3名

事務局 / 鶴我、紀田、根岸、市川、山内、池田、芦野

内容報告

2月24日(土)、医療生協さいたまSGFAM(さいたま総合診療医・家庭医センター)は、埼玉県総合医局機構・地域医療教育センター(さいたま市)において、家庭医療専門医(家庭医)試験・臨床実技試験の模擬試験を開催しました。埼玉県内の家庭医療専門研修施設では初めての取り組みです。

■埼玉県の状況、開催目的

全国にいる家庭医546人のうち、埼玉県は11人の家庭医療専門医がいます。(2017年10月31日時点)。医療生協さいたまは、地域の健康問題に対応できる医師を長年にわたり育成してきました。2014年には、病気だけでなく、患者のかかえる背景、家族や地域まで、まるごとしっかり診ることのできる家庭医を育成するセンターを開設し、さまざまな研修教育活動を実践しています。

■模擬試験

模擬試験には、SGFAM所属の3人の専攻医(初期研修を終え、専門医研修プログラムで研修中の医師)が臨みました。患者役として医療生協さいたまの組合員(模擬患者=SP)、評価者として医師・看護師が参加しました。その場で評価者やSPからフィードバックをもらった専攻医のなかには、7月に行われる日本プライマリ・ケア連合学会認定の家庭医療専門医試験を受ける医師もいます。

埼玉県は、医師・看護師が人口比で全国一少ない県であり、超高齢社会、貧困の深刻化、複雑化する健康問題に対応する家庭医の育成は、重要な取り組みです。医療生協さいたまでは、総合診療医・家庭医になるフィールドを整えています。県内で取り組みをさらに広め、県内外からの研修の受け入れをめざしています。

■参加者からの感想

- 日々の外来においても、心理、社会的な問題を抱えている人が多く、その考えなどを改めて学ぶことが出来たと思う。
- 外来という時間が決まった中で、しっかりと面接をすることの大変さを知ることができた。
- ぜひ、総合診療医を広げていくためにもSPとしても協力していきたいと思います。



第3回 埼玉ポートフォリオ発表会

開催日：2018年2月24日(土)

開催場所：埼玉県総合医局機構 地域医療教育センター

参加者名：40名(内訳：医師27名、薬剤師1名、医学生5名、事務7名)

SGFAM発表専攻医(久志本舞衣子Dr、佐藤順紀Dr)

内容報告

2018年2月24日(土)埼玉県総合医局機構 地域医療教育センターにて『第3回埼玉ポートフォリオ発表会』(主催：国立病院機構東埼玉病院 共催：日本プライマリ・ケア連合学会埼玉支部)が開催されました。

当センターからは2名の専攻医がポートフォリオ発表を行い、参加した埼玉県内各地の指導医からフィードバックをいただきました。



佐藤順紀医師(専攻医1年目)

「BPSモデルを用いて介入したCOPD進行患者の一例」



久志本舞衣子医師(専攻医3年目)

「地域ケア会議で方向性を導くことができた症例」



第29回 学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー

開催日：2017年8月6日(日)～7日(月)

- ・8/6(日) 研修プログラムポスターセッションへの参加
- ・8/7(月) セッション「IPWのすゝめ」の講師、ファシリテーターとして参加

開催場所：長浜ロイヤルホテル(滋賀県長浜市)

参加スタッフ：14名(初期研修医2名、病院看護師3名、診療所看護師1名、薬剤師1名、作業療法士1名、介護福祉士1名、事務4名)

WS参加学生：12名(医学生6名、看護学生4名、薬学生1名、初期研修医1名)

内容報告

■ポスターセッション

学生の参加が例年より100名程度減少するなか(参加数：200名程度)、SGFAMブースに来訪される方は学生、初期研修医併せて10名程度。ほぼ全員が埼玉県出身でした。来訪者からは口々に「埼玉に家庭医療のプログラムがあったことを知らなかった」という声が聞かれ、知名度と併せ宣伝することの重要性を感じました。



■IPWセッション：「IPWのすゝめ～専門職連携実践の基本のキホンを知ろう」

医療生協さいたま全県から、セッションのファシリテーターとして専門職に参加してもらいました。事前学習会等を通じ、学生セッションのファシリテーターを担当してもらうことで、SGFAMが考える学生対応(後継者対策)について理解を深めてもらいました。

当日は学生と一緒に学ぶこと、ファシリテーターを担当すること、セッションに参加することで職員自身のリフレクションが促され、多様な気づきを得ることができました。

何より、参加した職員が学生との関わりを「楽しい」「こんな学生たちなら実習に来てほしい」といった感想もあり、全ての事業所で学生実習を受け入れる動機づけの準備ができたと思われる活動となりました。



セッションに参加した学生さんの感想

- ・IPWについて初めて知った。普段からコミュニケーションを取るためには第一印象が大事ということが印象に残っています。
- ・連携おける重要なポイントをグループワークを通じて学ぶことができた。
- ・いろいろな職種としてIPWを実践されている方々にお話を聞いた点。経験したこととかも聞けて良かった。

ファシリテーターより

小野栄子さん(大井協同診療所看護長 現在は本部保健看護部)



IPWとの出会いは埼玉協同病院の回復期リハビリテーション病棟在籍中にIPW実習の受け入れで携わらせていただいたのが始まりで、今や診療所において多職種連携を感じない日はありません。学生さんの気づきを引き出しながら職員自身が改めてIPWの大切さや現場の現状・課題に気づき、それぞれが得られたパールの交流は実践を支える力となりました。事業所を越えチームさいたまとしてセッション成功に向けて取り組む機会もまた、私たちのIPWの育みであり現場に反映させることと思います。

「IPWのすゝめ」～法人IPW(inter-professional-work:専門職連携実践)研修～

開催日・場所・参加数：

- | | | |
|-----------------------------|---------|--------|
| ① 2017年10月21日(土) 9:00～17:00 | 埼玉西協同病院 | 参加者9名 |
| ② 2017年10月28日(土) 9:00～17:00 | テラスさんとめ | 参加者6名 |
| ③ 2017年12月 9日(土) 9:00～17:00 | 熊谷生協病院 | 参加者12名 |

講師：小野寺由美子さん(埼玉西協同病院総看護長)

内容報告

2011年度から2016年度まで埼玉協同病院で開催されていた「IPW研修」を2017年度はSGFAM主催で法人職員研修として位置づけ、埼玉西協同病院のある西部地域と熊谷生協病院の職員を対象に計3日間開催しました。

講師には埼玉西協同病院総看護長の小野寺由美子氏を迎え、『なぜ、IPWなのか』をテーマに「IPWの概念」「IPWの構造」「IPW実践者として必要な能力(IPWコンピテンシー)」についてワークショップを通じ学ぶ研修を行いました。

参加者は「IPW」という言葉を理論と実践から学ぶことで「IPW実践者」としてチーム内で活動していくことを体感し、職場での具体的な行動をイメージすることができました。

研修スケジュールは以下の通りです。

- ・アイスブレイク「エッグフライゲーム：自分を、チームを俯瞰する視点」
- ・レクチャー①IPWとは・レクチャー②リフレクション・レクチャー③IPWの促進要因・阻害要因
- ・ワーク①「エッグフライゲームをリフレクションする」
- ・ワーク②「多職種カンファレンスDVDをみて、チームで考える」
- ・ワーク③「多職種カンファレンスをやってみる」
- ・クロージング



参加者感想

- ・チームと言いながらそれぞれがバラバラに患者に関わる形になっていることに気が付いた。今後はチームで混ざり合ったものを患者・利用者と共に関われる形にしていきたいと思う。
- ・リフレクションをしないとやっただけになってしまう。リフレクションをして自分や他者との関係性を客観的にとらえ、NextStepへとつなげればと思った。
- ・楽しい研修となりました。日々の業務だけでなく、自分の生活にも活かしていきたいと思いました。ありがとうございました。

講師より

小野寺由美子さん(埼玉西協同病院総看護長)



医療・介護現場は、超高齢社会、格差社会という背景の中、複雑で困難な事例が多数存在します。目の前の患者さんに対し良いケアをしたいという思いは誰もが同じです。しかし、その問題をたった一人で解決することは不可能であり、多様な専門性をもったチームで対応していくことが望まれています。

「IPWのすゝめ」ではIPWの定義「複数の領域の専門職者が連携およびケアの質を改善するために、同じ場所で共に学び、お互いから学び合いながらお互いを学ぶこと」を意識し、より現場に近い連携実践を体験してもらう研修となります。現場の中でこそIPWの実践力は必須です。でも、能力の高い人が集めれば良いチームになるわけでは決してありません。「チームになっていく」プロセスが必要です。このプロセスを現場の中で、みなさんと私たち専門職と一緒に体験的に学ぶチャンスがこの研修です。楽しく学び、変化をつくる…そんな仲間になりませんか。

まち歩き@行田協立診療所

開催日：2018年3月20日(火)

開催場所：医療生協さいたま 行田協立診療所、きょうりつ訪問看護ステーション、CCさきたま
その周辺地域

参加者名：23名

医学生5名、組合員さん3名、職員5名、行田スタッフ7名、事務局3名

真下さん(協同保健師)、新島さん(熊谷保健師)、筒井さん(西協同事務)、河野Dr(西協同)、松村Dr(協同)

行田スタッフ/渡辺事務長、猪股さん、柴田さん、岩元さん、植山所長、工藤看護長、猪股訪看Ns

内容報告

昨年度からスタートした『まち歩き』。研修医や医学生と一緒に「地域を診断する」ことを体験し学びを深めたいという思いからスタートしたこの企画を、今年は舞台を行田市に移し開催しました。昨年は「地域を診断する」ことを目的としていましたが、今回はもう一歩先へ「地域診断→健康問題を考える→健康の社会的決定要因(SDH)の視点で問題を捉えなおす」という新しい試みでの学びをテーマとしました。午前中は①足袋工場見学コース ②患者さん訪問(インタビュー)コース ③陸王(診療所周辺歩き)コースの3コースに分かれ、地域の方々に協力を得ながら行田の街の歴史や、そこに生きる人々の生活に触れました。午後は「行田協立診療所」に通院する患者さんの事例をもとに、午前の



地域診断での学びを活かしSDHの視点で問題を捉えなおすワークを行いました。それぞれが、「労働」や「地域コミュニティ」「患者さんのライフサイクル」などに注目しながらワークに取り組み、参加者全員が「この街で生きる人々の健康」について真剣に考え、寄り添った1日となりました。



参加者感想

- その地域で住んでいる人の本当の想いを知らなければ、地域医療の実践はできないと思う。
- 患者さんを目の前にして得られる情報に一步踏み込んで考えられるようになるだけで、より深い地域問題、社会問題まで考えられるのは面白いと思った。
- “地域に根差した視点”をもつことの大切さを学びました。また、対象の社会的背景を知るには、歴史的背景も知っておくことが重要であると考えました。

筆者感想

戸田 美咲(埼玉協同病院・教育研修室)



今年はどんな「まち歩き」にしようかとSGFAM・診療所スタッフと3ヶ月間一緒に考える中で、私自身が本当に多くのことに気づかされ、学び、この企画に多くの人が参加して欲しいという思いを一層強く抱きながら準備を進めました。終了後の参加者の皆さんのアンケートを読み、またさらにハッとさせられ、最初から最後まで学びの連続だった気がします。温かく迎えて下さった行田協立診療所の皆さまに心より感謝いたします。ありがとうございました。

第8回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(香川県高松市)

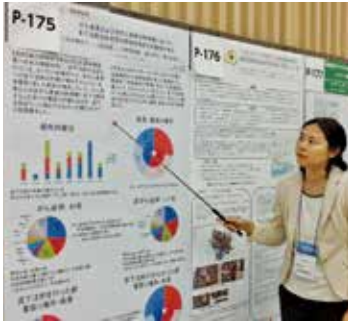
開催日：2017年5月13日～14日

開催場所：サンポートホール高松 他

SGFAM参加者 演題発表一覧

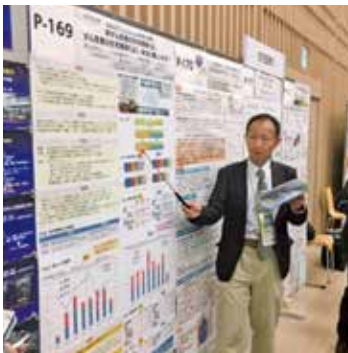
◆ 小野塚良輔Dr(専攻医2年目)

「当院ハイケアユニットにおける急性期治療・ケア改善のための取り組み」



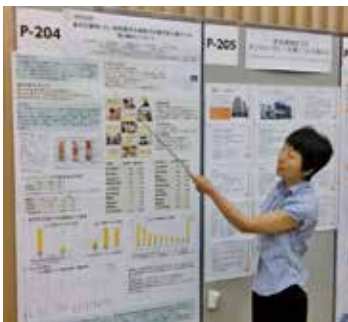
◆ 久志本舞衣子Dr(専攻医3年目)

「がん患者および非がん患者の終末期において、皮下注射は在宅死の割合を高める可能性がある」



◆ 関口由希公Dr(センター長、指導医)

「当診療所の看取りの傾向と分析；非がん患者の在宅看取りより、本当に難しいのか？」



◆ 山田歩美Dr(指導医)

「歯科を標榜しない急性期中病院での専門的口腔ケアの取り組みについて」



◆ 小堀勝充Dr(指導医)

「小児在宅医療での看取りの2例」

◆ 芦野 朱(事務局)

「当法人における多職種連携実践～学生ワークショップのまとめ～」

2017年度 講演

さいわい診療所 関口由希公所長

- 2017年11月19日 第6回日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック地方会
(埼玉県さいたま市)
「今さら聞けない?!ポートフォリオの作成と指導ー苦手領域を得意にチェンジしたいー」
(ファシリテーターとして参加)
- 2018年 1月25日 前橋市医師会 まえばし在宅医療塾(群馬県前橋市)
「在宅医療・救急医療現場における死亡診断について」(ファシリテーターとして参加)
- 2018年 1月27日 東京女子医科大学女性医療人キャリア形成センター 女性医師再研修部門主催
一般内科プロジェクトシンポジウム 地域医療における医師の働き方改革
ー外来で勝負する女性医師の視点からー
「一般内科プロジェクトの紹介」

さいわい診療所 三輪佳雅医師

- 2017年10月27日 川口市立川口高校1年生キャリアガイダンス
「職業を知る！ 仕事を知る！ 世界を知る！」
「医師の仕事について」

おおみや診療所 山田晃務所長

- 2018年 1月19日 地域ネットワーク ケアマネジャー懇談会(埼玉県さいたま市)
「終末期医療について」

大井協同診療所 増山由紀子所長

- 2017年11月19日 第6回日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック地方会
(埼玉県さいたま市)
「今さら聞けない?!ポートフォリオの作成と指導ー苦手領域を得意にチェンジしたいー」
(ファシリテーターとして参加)

埼玉西協同病院 吉野肇院長

- 2017年10月18日 所沢市医療介護連携会議(埼玉県所沢市)
「地域包括ケアについて」
- 2018年 1月23日 防衛医大 地域医療連携連携相互交流会(埼玉県所沢市)
「地域包括ケアについて」

熊谷生協病院 小堀勝充院長

- 2017年 6月10日 子育てネット くあぴあ(埼玉県熊谷市)
「熱中症」
- 2017年6月21日 学童保育救急学習会 熊谷生協病院
「小児の救急対処法」
- 2017年11月11日 市民公開講座 熊谷生協病院
「家での看取り 現状と展望」
- 2017年11月18日 子育てネット くまぴあ(埼玉県熊谷市)
「冬の感染症」
- 2017年12月13日 熊谷市医療的ケア児に係る研修会(埼玉県熊谷市)
「地域で医療的ケアを必要とするお子さんをささえるために」

2017年度活動報告

- 2018年 1月23日 認知症カフェ 熊谷市緑化センター（埼玉県熊谷市）
「終活について」

秩父生協病院 山田昌樹院長

- 2017年 8月 6日 第3回ちちぶいきあいフォーラム
～ちちぶ版地域包括ケアシステムの理解と活用にむけて～（埼玉県秩父市）
「今日からできるフレイル予防～元気に老いるコツ～」
- 2017年9月2～3日 第2回地域包括ケア全日本民医連トップ管理者交流集会
「地域包括ケアとHPH活動の実践－行政・自治体との協同・職員育成－」
- 2018年 2月18日 愛媛民医連第35回医療・福祉・運動交流集会（愛媛県新居浜市）
「地域包括ケアとHPHの実践」

埼玉協同病院 山田歩美医師

- 2017年11月19日 第6回日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック地方会
（埼玉県さいたま市）
「今さら聞けない?!ポートフォリオの作成と指導－苦手領域を得意にチェンジしたい－」
（ファシリテーターとして参加）
- 2018年 1月27日 東京女子医科大学女性医療人キャリア形成センター 女性医師再研修部門主催
一般内科プロジェクトシンポジウム 地域医療における医師の働き方改革
－外来で勝負する女性医師の視点から－
「シンポジウム:内科外来は面白い!」(シンポジストとして参加)

埼玉協同病院 久志本舞衣子医師、佐藤順紀医師

- 2017年11月19日 第6回日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック地方会
（埼玉県さいたま市）
「今さら聞けない?!ポートフォリオの作成と指導－苦手領域を得意にチェンジしたい－」
（ポートフォリオ資料提供）

2017年度 執筆

さいわい診療所 関口由希公所長

- 2017年3月号 (3/15) 総合診療 第27巻 第3号 P327-328 医学書院
「これが本当に必要な薬40」オメプラゾール、プロピペリン
- 2017年6月1日 総合診療専門医のためのワークブック (3) P24-31 中山書店
「黄疸」「発熱」「頭痛」

埼玉協同病院 忍哲也医師

- 2017年4月号 Gノート 別冊P91-P102 羊土社
「CommonDiseaseの診療ガイドライン「09 B型慢性肝炎」「10 C型慢性肝炎」」
- 埼玉県医学会雑誌 第52巻 第1号
「当院における大腸EMR後出血例の検討」
（共同著者）孫国東、久保地美奈子、田中宏昌、守谷能和、大石克巳、小野未来代、辻忠男、増田剛

2017年度医療生協活動 ～班会、医療懇談会、レクチャーなど～

さいわい診療所 関口由希公所長

- 2017年10月30日 さいわい診療所 患者塾
「在宅医療について」～住みなれた地域、自宅で安心して暮らし続けるために～
- 2017年11月26日 さいわい診療所 健康まつり
「認知症について」

さいわい診療所 三輪佳雅医師

- 2017年 6月30日 さいわい診療所 患者塾
「禁煙のすすめ」
- 2017年12月15日 さいわい診療所 患者塾
「アルコールの上手なつきあい方」

おおみや診療所 山田晃務所長

- 2017年10月21日 おおみや診療所 健康まつり
「認知症の話し」

秩父生協病院 村岡雷太医師

- 2018年 3月11日 秩父中央第一支部支部総会／医療懇談会
「フレイル予防について」



指導医・レジデント・研修施設案内



❖指導医

日本プライマリ・ケア連合学会認定
日本プライマリ・ケア連合学会認定

プライマリ・ケア認定医・指導医
家庭医専門医・指導医



センター長

せきぐちゆきひろ
関口由希公

さいわい診療所 所長
家庭医専門医
プログラム責任者



ましまゆきこ
増山由紀子

大井協同診療所 所長



やまだあゆみ
山田歩美

埼玉協同病院
総合診療専門医
プログラム責任者



やまだまさき
山田昌樹

秩父生協病院 院長
家庭医専門医
プログラム責任者



よしのたかゆき
吉野隆之

秩父生協病院



こほりかつみ
小堀勝充

熊谷生協病院 院長



みやおかけいすけ
宮岡啓介

熊谷生協病院



よしのはじめ
吉野肇

埼玉西協同病院 院長



やまだてるちか
山田晃務

おおみや診療所 所長



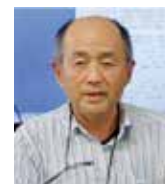
しのびてつや
忍哲也

埼玉協同病院



くぼちみなこ
久保地美奈子

埼玉協同病院



いなむらみつり
稲村充則

埼玉協同病院

❖スタッフ医師



みわよしまさ
三輪佳雅

さいわい診療所



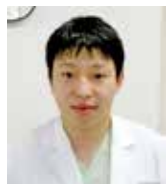
くしもとまいこ
久志本舞衣子

埼玉協同病院



さとうじゆんき
佐藤順紀

2019年度終了予定



まつむら のりひろ
松村憲浩

2020年度終了予定



むらおか りいた
村岡雷太

Ver1.0専攻医

❖レジデント(専攻医)

フェローシップ紹介

2017年度 診療所マネジメントプログラム参加
三輪 佳雅 医師



研修修了生紹介

2017年度 家庭医療後期研修プログラム 修了
久志本舞衣子 医師





医療生協さいたま

さいたま総合診療医・家庭医センター

Saitama Center for General and Family Medicine

〒333-0831 埼玉県川口市木曾呂1317

電話：048-296-5822

MAIL：saitamasgfam@gmail.com

URL：https://kateii-saitama.jp/